



杉並区議会議員(無所属)

岩田いくま 区政報告

第36号(平成24年秋号)

発行:岩田いくま 〒168-0082 杉並区久我山5-24-30-103

TEL/FAX;03-3247-8660 E-Mail;ikuma@gakushikai.jp

HP;http://ikuma-iwata.net (←毎日更新しています！)

岩田いくま(生真)略歴:昭和46年(1971年)生。都立西高、東京大学卒。外資系コンサルティング会社勤務を経て、平成15年5月より杉並区議会議員。平成23年5月より3期目。

趣味:バレーボール(大学時代は母校で部活動のコーチを行う)、読書。

家族:妻、長男(9歳)、長女(7歳)、次男(4歳)。

将来世代に負担を先送りしないために ～長期財政計画の必要性を考える～

9月～10月に開催された議会では、平成23年度の決算審査が行われました。

この機会に、区政の現状を示す特徴的な数値を列挙したいと思います。

| | | 平成18年度 | | 平成21年度 | | 平成23年度 | |
|------|---------------|--------|--------|---------|--------|---------|--|
| | | 実数 | 実数 | 平成18年度比 | 実数 | 平成18年度比 | |
| 財政 | 特別区税収入 | 638億円 | 621億円 | 0.97倍 | 582億円 | 0.91倍 | |
| | 基金(貯金)－区債(借金) | 58億円 | 264億円 | 4.55倍 | 200億円 | 3.45倍 | |
| 生活保護 | 受給者数 | 5,508人 | 6,545人 | 1.19倍 | 7,453人 | 1.35倍 | |
| | 金額 | 111億円 | 128億円 | 1.15倍 | 146億円 | 1.32倍 | |
| 保育園 | 次年度4月入園の申込者数 | 1,288人 | 1,936人 | 1.50倍 | 2,560人 | 1.99倍 | |

生活保護受給者や保育園入園希望者といった福祉需要が近5年で急増する一方で、
税収の減少もあり、せっかく健全化した財政(因みに、10年前の平成13年度の「基金－
区債」は、マイナス606億円でした)は、**ここ2年、悪化の兆し**が見てとれます。

また、区立施設の老朽化も課題となっており、その**改築・改修経費は、今後30年間**

| 施設 | 改築概算費用 | 改修概算費用 | 合計 |
|-------|---------|--------|---------|
| 本庁舎 | － | 78億円 | 78億円 |
| 大規模施設 | 61億円 | 69億円 | 130億円 |
| 中規模施設 | 193億円 | 288億円 | 481億円 |
| 区営住宅 | 88億円 | 27億円 | 115億円 |
| 小中学校 | 1,500億円 | 462億円 | 1,962億円 |
| 計 | 1,842億円 | 924億円 | 2,766億円 |

で2,766億円と

推計されていますが

(全施設を廃止せず、現在の規模で存続した場合。平成21年4月1日時点。)、未だ
どのように施設
を更新していく
のか、示されて
おりません。



高まる福祉需要に適切に対応していかなければならないことは当然ですが、だからといって、その場しのぎの対応に終始し、**「現在の生活のために、将来世代に負担を先送りする」**ことは**絶対にさけねばなりません。**

今春に策定された総合計画では、長期財政計画は示されませんでした。が、**早急に区立施設の再編・整備計画と、それを踏まえた長期財政計画を策定したうえで、**当面の行政需要

にいかに対応するかを考えることが、持続可能な区政経営を行ううえで必要だと考えます。



決算特別委員会での質疑(抜粋)



(質問の背景)

杉並区では、独自の取組みとして、高次脳機能障害者等中途障害者に対し、相談支援事業と通所訓練事業(対象:18歳以上65歳未満)を行っています。東京都の推計によれば、高次脳機能障害者発生数(都内)は年間約3,000人。また、そのうち1/3強が生産年齢人口の方です。

生活リハビリ事業

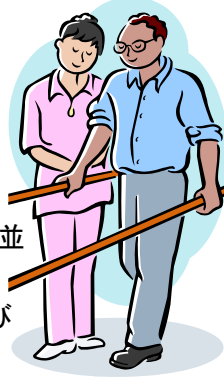
(岩田いくまの質問)

生産年齢時の中途障害は、本人・家族ともにほとんど予期していない事態であり、生活環境に大きな影響を与える。誰にでも起きうる事態であり、税を使うに十分値する事業なので、今後とも着実に実施していただきたいが、所見は。

(区の答弁)

相談支援・通所訓練事業とも、意義は大きいと認識している。課題等(*)の検討も行い、今後一層充実したものとしたい。

(*)職員が普段勤務する事務所は杉並保健所だが、訓練実施場所は障害者福祉会館のため、事業実施のたびに職員が移動している。



(質問の背景)

杉並区では、平成14年度から平成22年度まで9年間、毎年「外部の視点で区行政のチェックを行う」ことを目的に、外部監査を実施してきました。しかしながら、平成23年度からは実施されておりません。

個別外部監査

(岩田いくまの質問)

現在審査している決算年度(平成23年度)に外部監査を行わなかった理由は何か。

平成24年度は杉並版事業仕分けは行っていないが、外部監査も行っていない。今後はどうするのか。

(区の答弁)

杉並版事業仕分けを実施したので、休止した。

手法として代わるものがなければ、外部監査は続けていくものと考えている。

(質問の背景)

平成23年度から、小学校において新学習指導要領が全面実施となりました(中学校は平成24年度から)。新学習指導要領では、伝統文化の重視がうたわれています。

伝統文化教育

(岩田いくまの質問)

平成23年度から、文化庁が「伝統音楽普及促進支援事業」を行っている。委託を受けた団体(平成23年度は18団体)が様々な学校向けの事業を行っているが、区内で取り入れた学校はあるか。

(区の答弁)

小学校2校、中学校1校が応募している。

(伝統文化教育に限らないが)各学校が様々な機会を選択できるよう、教育委員会として今後も取組んでほしい。

これまでも各学校は、特色ある教育活動を推進している。今後も子供のより良い学びに結びつくものは、積極的に広報し、学校への周知に努めたい。

上記の他、「行政計画体系の整理・見直し」「区長と話す会」「若者就労支援」「子育て応援券」「体育館/体育室の利用方法」について質問しました。

質疑の様子は、杉並区議会公式HPの「委員会録画中継」をご覧ください。

http://www.gikai.city.suginami.tokyo.jp/vod_iinkai/vod_iinkaitop.htm

学校防災キャンプ

7月下旬、小学校にて「学校に泊まる会(学校防災キャンプ)」が行われました。

この事業は、児童の保護者有志で取り組まれてきたもので、今年で19回目。私は、昨年に続き、実行委員長として参加しました。参加者は約70名(うち、児童は約30名)。保護者や先生その他、近隣中学校の中学生レスキュー隊や、地域で読み聞かせをしておられる方にもお手伝いいただきました。

「不便な生活をする」「真夏にクーラーに頼れず、寝苦しい夜を過ごす」という、災害時には当たり前のことを、たった1日だけでも体験することは、便利な生活に慣れた子供や私達にとっては、いざという時への備え・耐性につながると思います。

こうした事業は、地域の大人として、今後も積極的にかかわっていくと同時に、議会を通じて区政に反映していきたいと思っています。

概略スケジュール

【初日】

- 13:30 集合・受付・開会式
- 14:00 救命救急簡易講習／防災倉庫見学
- 15:00 校庭にテント設営
- 15:30 食事づくり(火起こし体験、かまど設営、飯ごう炊飯、カレーとハヤシライスづくり)
- 20:00 お話し会(読み聞かせ)

【2日目】

- 6:30 ラジオ体操、片付け
- 7:30 朝食(防災食)配布、閉会式



校庭に張られたテント



飯ごう炊飯



朝食用の防災食

幼稚園チームパパ

9月下旬、幼稚園チームパパ(おやじの会)主催による、「魚をつかみ取りして、さばいて調理&空き缶炊飯」が行われました。今回のコンセプトは、

①生魚をつかまえ、さばいて食べるまでの一連の過程を体験する食育

②いざというときの炊飯体験

です。

当日は、あいにくの雨。それでも約400人の参加があり、子供達はニジマスが泳ぐ「即席仮設プール」で大はしゃぎでした。



我が子のためだけでなく、「みんなの子」のために活動する父親も地域に数多くいます。

「現役世代」の力をいかに政治・行政がコーディネートするか、改めて考えさせられます。

母校(高校)の記念祭

9月下旬、母校の高校にて記念祭が行われました。

近年は「同窓会による企画展示」も行われており、今年の担当はバレーボール部。

私も高校時代に所属しておりましたので、5月以降「企画委員」としてお手伝いをしてきました。

企画委員の年齢構成は、20代~70代と、まさに

“3世代”。にもかかわらず、「部活の先輩後輩」というつながりが持つ力の大きさを実感した半年でした。

高校の所管は東京都のため、普段の仕事での接点は少ないですが、行政の“横割り(都と区の壁)”を超えた、より効果的な「小中学校との交流」「地域との交流」も考えていきたいと思います。



ナショナルトレーニングセンター視察

10月10日、杉並区議会スポーツ振興議員連盟として、東京都北区にある「ナショナルトレーニングセンター」及び「国立スポーツ科学センター」を視察しました。

両施設は、主にトップレベル競技者の国際競技力向上のための施設であり、国際基準の練習環境、最先端技術を駆使した情報・医・科学拠点として整備されています。

例えばナショナルトレーニングセンターでは、競技毎にオリンピック等国際大会と同じ設備(道具等)及びプレー分析用のデジタルハイビジョンカメラが備えられており、国立スポーツ科学センター内の陸上競技実験場には、動作解析システム等が設置されています。同じ環境を杉並区で準備することは出来ませんが、実地で体験した「最善を尽くす」という姿勢は、日々のスポーツ振興にいかしていきたいと思います。

概略スケジュール

- 10:00 講義(日本オリンピック委員会の活動について)
- 10:25 講義(ナショナルトレーニングセンター及び国立スポーツ科学センターについて)
- 10:45 講義(総合型地域スポーツクラブについて)
- 11:45 昼食
- 12:30 施設見学(ナショナルトレーニングセンター)
- 14:00 施設見学(国立スポーツ科学センター)



ナショナルトレーニングセンター



国立スポーツ科学センター



陸上競技実験場
(国立スポーツ科学センター内)

<キリトサ>線

<キリトサ>線

区政や岩田いくまに対する質問・ご意見・ご要望をおきかせください。

FAX:03-3247-8660

E-Mail: ikuma@gakushikai.jp

お名前:

ご住所:

TEL:

FAX:

E-Mail:

質問・ご意見・ご要望: